地理院タイルを活用した 防災情報マップの提供

中電技術コンサルタント株式会社 Chuden Engineering Consultants

山野 亨 前田 翔平

わかやま土砂災害マップの概要(1/4)

和歌山県では、土砂災害から県民の生命及び身体を守るため、必要な情報を地域住民が適切に利活用できる情報基盤として「わかやま土砂災害マップ」の運用をしています。





わかやま土砂災害マップの概要(2/4)

マップ

【主題】

雨量観測所

土砂災害警戒区域等 土砂災害危険箇所 法指定区域 土砂災害警戒判定メッシュ 山地災害危険地区 公共施設名等

▽ 急傾斜崩壊危険区域

□ □ 二十砂災害警戒判定メッシュ

☑■地すべり防止区域

■□□Ⅲ拠等危険地区

□ 山腹崩壊危険地区 □ 地すべり危険地区 ■ その他の情報 公共施設名等

☑ 7 雨量観測所

☑┊崩壊土砂流出危険地区

【背景地図】 千里王子跡、 // 南部 南部保育所 南部 【紀勢本線】 地理院タイル(標準地図) ■現在、土砂災害警戒避難基準に達して危 愛之園保育園 地理院タイル(写真) ■2時間後に土砂災害警戒避難基準に達する Google Maps(地図) 森の鼻 Google Maps(画像) 2 km

防災リンク

地理院

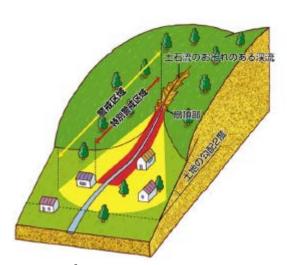
防災わかやま

わかやま土砂災害マップの概要(3/4)

• 土砂災害警戒区域とは

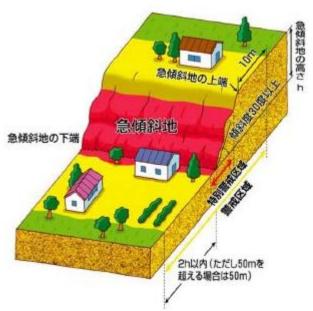
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が 生ずるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制

の整備が行われます。



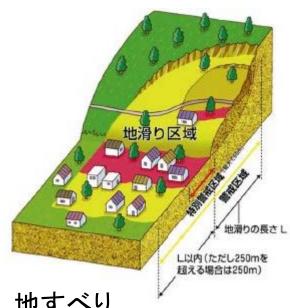
土石流

※山腹が崩壊して生じた 土石流又は渓流の土石等が 一体となって流下する自然現象



急傾斜地の崩壊

※傾斜度が30°以上である 土地が崩壊する自然現象



地すべり

※土地の一部が地下水等に 起因して滑る自然現象又は これに伴って移動する自然現象

出典:国土交通省「土砂災害防止法の概要」 http://www.mlit.go.jp/river/sabo/sinpoupdf/gaiyou.pdf



わかやま土砂災害マップの概要(4/4)

• 和歌山県の土砂災害発生状況

県土の約80パーセントが急峻で脆弱な山地におおわれている上に、全国有数の多雨地帯に位置すること、近年の集中豪雨の発生により、土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害が毎年のように発生しています。

和歌山県の土砂災害発生状況(道路、河川災害は除く)											
区分	平成 18	平成 19	平成 20	平成 21	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28
土石流	0	1	1	3	2	28	0	3	2	1	0
地すべ り	3	1	0	0	0	6	1	0	3	0	0
がけ崩 れ	12	19	14	20	2	10	1	7	22	36	24
合計	15	21	15	23	4	44	2	10	27	37	24

出典:和歌山県砂防課 https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/080600/sabo/dosyasaigai.html



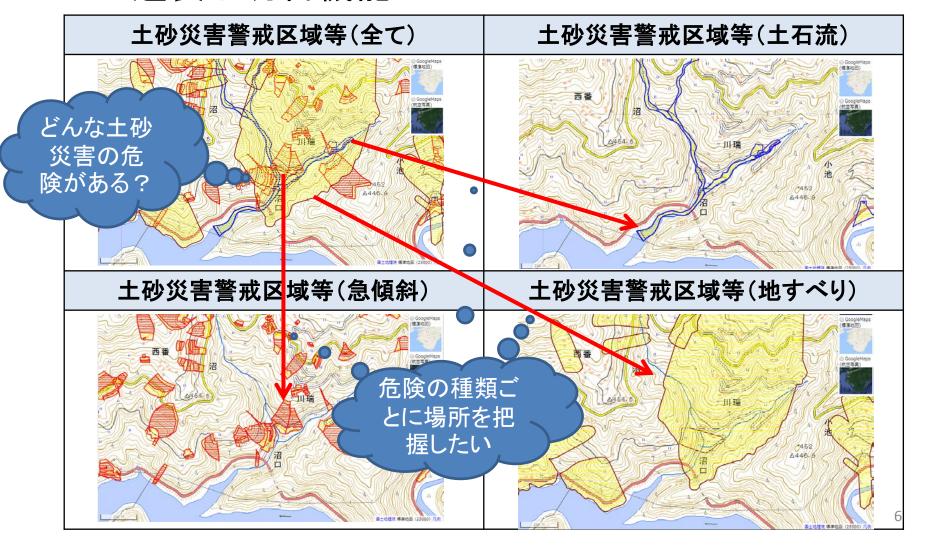
わかやま土砂災害マップの主要機能(1/3)





わかやま土砂災害マップの主要機能(2/3)

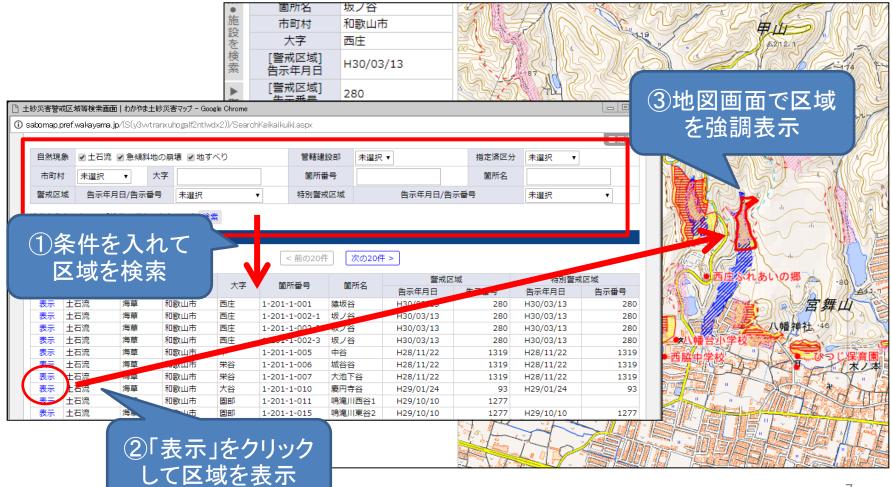
• 主題表示切替機能





わかやま土砂災害マップの主要機能(3/3)

• 土砂災害警戒区域等の検索機能





わかやま土砂災害マップの改修

新旧システム比較

	旧システム	新システム
運用期間	平成30年3月まで	平成30年4月から
サーバ設置方法	公開用サーバ:オンプレ 管理用サーバ:オンプレ	公開用サーバ:クラウド 管理用サーバ:オンプレ
背景地図	航空写真(県作成) 地形図(県作成)	地理院タイル Google Maps

• 新システムの特徴

特徴	詳細		
地理院タイルの活用	①動作が軽い ②街中、山地問わない、シームレスな地図・画像 ③無償		
クラウドの活用	①ネットワーク・サーバの運用負荷が低い ②県外にIDCがあるため災害時のサービス継続に期待		



システム構築上の着眼点(1/5)

課題1:表示レイヤ数が多い

数多くある主題を、全て初期表示することが要件である。DBから直接表示するとサーバ負荷が高くなる。

項目	詳細	処理レイヤ数
土砂災害警戒区域等	指定済(5)、指定準備中(5)	10
土砂災害危険箇所	_	5
法指定区域	_	3
山地災害危険地区	_	3
その他主題	土砂災害警戒判定メッシュ、公共施設名等、雨量観測所	3
背景地図	_	1
	合計	25

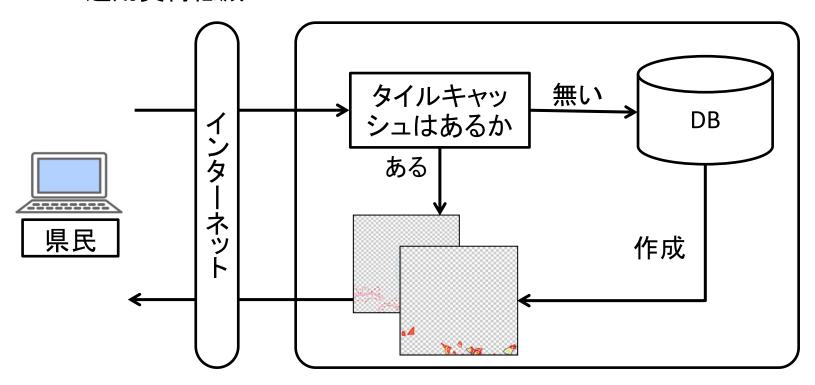


システム構築上の着眼点(2/5)

- 解決策1-1:タイルキャッシュの作成

 - ズームレベルの高いタイル(Z17~Z18)は、リクエスト時に作成

 ⇒運用負荷低減



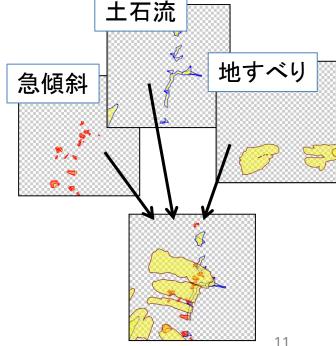


システム構築上の着眼点(3/5)

- 解決策1-2:処理が必要なレイヤ数を縮減
 - 関連がある主題をまとめたレイヤを作成
 - 背景地図に地理院タイル、Google Mapsを利用

項目	処理レイヤ数			
块口	旧システム	新システム		
土砂災害警戒区域等	10	1(最大3)		
土砂災害危険箇所	5	1(最大3)		
法指定区域	3	1(最大3)		
山地災害危険地区	3	1(最大3)		
その他主題	3	3		
背景地図	1	0		
合計	25	7(最大15)		

例:土砂災害警戒区域等





システム構築上の着眼点(4/5)

• 課題2:クラウドサーバへの構築

公開用サーバをクラウドに構築する要件があり、クラウドの特性を生 かした設計を行う必要がある。

ポイント

土砂災害は主に降雨によって起こるため、出水期にアクセス集中が 発生しやすい。

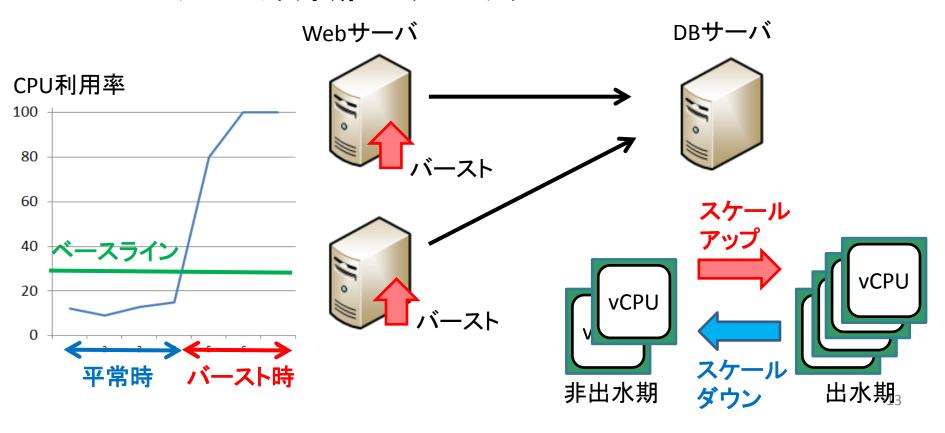


出典: Google Analytics (他県の事例)



システム構築上の着眼点(5/5)

- 解決策2:アクセス集中対策
 - WebサーバとDBサーバは分離
 - Webサーバは2台構成かつバースト対応のものを選択
 - DBサーバは出水期にスケールアップ



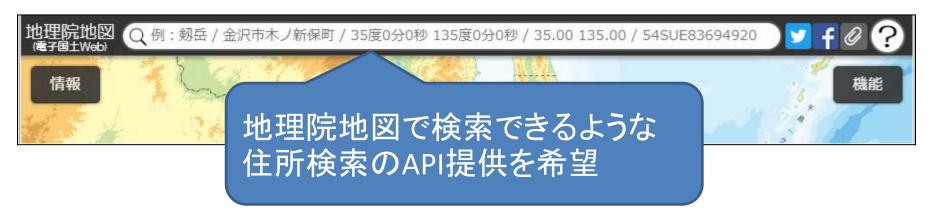


最近の課題



ただし、

- Geocoding結果は地理院タイルで利用不可
- 7月16日より価格プランが変更





まとめ

- わかやま土砂災害マップとは
 - WebGISで動作する、リアルタイム防災情報システム
 - 地理院タイルを活用することで、軽快に動作するシステム を安価に実現
 - クラウドの利用は、防災システムと親和性が高い